

腰痛に対して低侵襲の内視鏡手術と再生医療を組み合わせた日帰り手術を提供

すべては患者のために、ワンストップの治療を実現

総合的に診られるための確な診断をして、患者さんの症状の原因を究明できることが強みです



表参道総合医療クリニック

院長 田中 聡

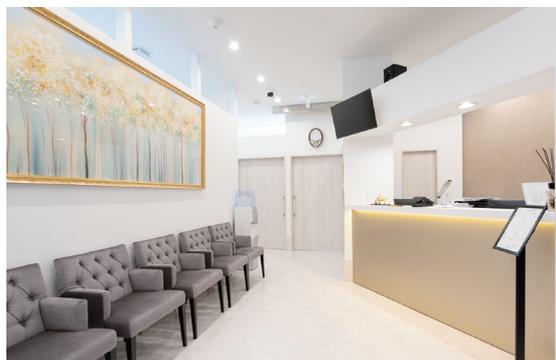
明日の医療を支える信頼のドクター

2023年3月に開院したばかりの表参道総合医療クリニック。脳神経外科、脊椎など整形外科を専門にする田中聡院長が治療に当たっている。洒脱なショップが立ち並ぶ東京・表参道の一角にクリニックを構え、スタートから1年経たずして、地元だけでなく全国からも治療の相談に来院する患者が増えている。

「痛みと再生のクリニック」をコンセプトに膝痛、腰痛に対して先進的な治療や日帰り手術、がんの先進治療などを提供。痛みに関する治療で改善が見られない患者に対し、オーダーメイドの専門的治療を行っている。また整形外科・脳神経外科・腫瘍内科・内科と幅広く対応している。痛みの総合クリニックとして、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアを日帰り手術で受けられるほか、頭痛・腰痛・膝痛・肩の痛み・頸部痛など日常でよくある痛みにも対応できる。

特に、低侵襲の内視鏡手術と再生医療を組み合わせた、日本ではまだ珍しい治療方法が特徴だ。クリニックのロゴマークには再生の象徴、フェニックス（不死鳥）のデザインをあしらっている。同院は専門性の高い医療をオーダーメイドに提供しており、腰痛の日帰り手術、再生医療（PRP、幹細胞上清液）脳卒中の後遺症に対してサイトカインカクテル療法やがんの最新治療（遺伝子治療、免疫療法）など、常に新しい技術や手法を積極的に採り入れている。豊富な経験を基に得た専門性で、痛みを取り、治療に導く治療をワンストップで提供できるのが強みだ。確かな技術と専門知識に加え、常に新しい医療に取り組みうとする田中院長の積極性が、他院ではあまり見られない先進的な医療に繋がっている。

「人の役に立てる仕事に就きたい」と思い医師に興味を持つ
脳神経外科に魅力を感じ、ハードな現場で経験を積む



平日の来院が難しい患者のため、土日も19時まで診療している

田中院長が医師に関心を抱ききっかけの1つが、幼少期の頃の体験だった。当時、急病の母に親身に治療に当たる医師を見て、人の役に立てる仕事に就きたいと思ったという。脳神経外科に興味を抱いたのは大学生の時、複雑な構造である脳の外科手術を見学して、その奥深さに魅了された。「本当に神秘的だと思いました。脳に関してはまだまだ解明されていないことが多い点にも興味を引かれました」

そして、手術など高い技術を使い自分の力で患者を治療できる、やりがいを感じられる外科医を目指した。

湘南鎌倉病院で研修医として医師のキャリアをスタートさせ、患者の全身を診ることのできる環境で、多くの手術や治療に当たった。

その後、N T T 東日本関東病院でも脳神経外科の経験を積む。再び湘南鎌倉病院に戻った後、稲波脊椎関節病院で低侵襲の技術を学び、脊椎の内視鏡手術を体験した。さらにその後は森山記念病院へ出向いて、鼻經由で行う下垂体の内視鏡手術にも立ち会った。「脊椎や下垂体の内視鏡手術をたくさん経験することができ、身に付けたい医療技術もモノにすることができました」

つらい、腰の悩み、低侵襲な日帰り手術を提供。患者に合わせて治療方法を選択するオーダーメイドの診療

十分な経験を積んで、専門技術と知識を会得した田中院長。開院の機は熟していた。2023年3月、表参道にクリニックを開院。患者が病院を掛け持ちしなくても良いよう、「総合医療」を謳っている。

開院した背景には、手術を受けても完治せず、後遺症に苦しむ患者を見てきた経験も影響している。また保険診療の制約など、既存の医療では実現できない治療の限界を感じていた面もあった。田中院長が積極的に幅広い知見を求めた行動の源泉と言ってもいいだろう。

治療の柱は大きく4つ、「腰の日帰り手術」「再生医療」「脳卒中の後遺症に対する再生医療」「最新のがん治療」だ。そのほかにも、男性の更年期やエイジングケアなど守備範囲は広い。「腰の日帰り手術」は、患者の病気、要望に応じて、「PED」（経皮的内視鏡下椎間板摘出術）、「PLDD」（椎間板ヘルニアのレーザー）や「PEL」（脊柱管狭窄症内視鏡下手術）や「PDR法」（経皮的椎間板再生治療）など手法を使い分けている。

PLDDは椎間板ヘルニアに対して行うレーザー治療だ。レーザーを椎間板内の髄核に照射することで、椎間板を縮小し神経の圧迫を軽減することで痛みを改善する。レーザーだと1時間弱で完了し、短期間で社会復帰したい人向けの治療方法だ。

PELは椎間板ヘルニアに対して行う日帰り内視鏡手術で、腰痛の原因である椎間板ヘルニアを摘出する根治的治療法だ。

「当院では局所麻酔での内視鏡手術で専門性が非常に高い治療法であり、確実に治したい人向けです。内視鏡を入れるための穴（約8mm）を開けるだけなので、身体への負担も軽くて済みます」

PELは脊柱管狭窄症に対して行う低侵襲の日帰り内視鏡下手術だ。従来の術式では長期入院が必須であり、背中を筋肉を一部剥がす必要があることや全身麻酔が必要であることから、内科的な合併症のある方には適用できないなど、いくつかの制約があった。

「当院では小さな切開で済み、局所麻酔で日帰り手術可能です。特に治療中の重篤な病気があり、



低侵襲の内視鏡手術と再生医療を組み合わせることで、患部の早期治療に繋がっている

全身麻酔での手術が受けられない高齢の患者さんにとっては利点が非常に大きいと思います」
PDR法（経皮的椎間板再生治療）は、損傷した椎間板の再生治療だ。
患者様の血液より濃縮血小板由来の成長因子を抽出し濃縮血小板由来の成長因子と幹細胞上清液を穿刺針で椎間板に挿入し、血管造影透視装置を使って損傷した椎間板に成長因子を投与する。様々な論文で再生治療としての注目が集まっている。
再生医療の治療内容としては、膝痛の原因の1つである変形性膝関節症に対しては日帰りによる「再生因子注入療法」や「幹細胞培養上清液」の注入療法も取り入れている。また椎間板性腰痛に対しても、PRP/FD療法や幹細胞培養上清液の注入療法を行っている。ダメージを受けている神経

や組織の修復を助けるために、これらの腰痛治療を組み合わせている。
圧迫を取り除くのみでは修復に時間がかかる神経や椎間板に再生医療由来技術を用いた治療を取り入れるのは、理にかなった治療法と言えるだろう。

脳卒中の代表的な後遺症には運動障害と認知機能低下がある。運動障害は、日常生活に与える影響は障害果の大小よりも、むしろ障害部位とそれに関連する神経症状の部位によって決定される。

同クリニックでは後遺症改善に「サイトカインカクテル療法（歯髄幹細胞培養上清液治療）×ECCP（最新リハビリ機器）」という新しい提案を行っている。今までは根本的な回復が困難と

言われていた脳卒中や脊髄損傷、パーキンソン病の後遺症などに対し、脳や神経に刺激を与え、幹細胞の神経細胞再生能力の効果をより高めることを目的とした、損傷された箇所の再構築を目指す方法だ。

サイトカインカクテル療法は、筋萎縮性側索硬化症（ALS）や認知症脊髄損傷などの脳神経の後遺症を改善する可能性が報告されている。

「最新のがん治療」はがん遺伝子治療、免疫療法がある。がん遺伝子治療は、がん抑制遺伝子を利用する治療法だ。傷ついた遺伝子を正しい情報を備えた遺伝子に置き換えることで、がん細胞の増殖を抑制し、死滅を促す。同クリニックでは10種類のがん抑制遺伝子を用意し、それぞれの特徴を考えながら、患者の体内に点滴投与する。多くのがんに適応でき、その後の抗がん剤治療や放射線治療の効果が高まることも期待できるといふ。

ニーズが高いのは腰痛などの治療、再生医療、がん治療。保険診療に加え、自由診療も駆使して最新の治療方法を導入し、何とか患者のニーズに応えようとしている。「例えば、しびれ」は腰が原因の場合と脳が原因の場合があります。僕は両方診ることができるので、その場での確な診断ができる。患者さんの症状の原因を究明できることが強みです」

多種多様な治療方法を実践できるのはとりもなおさず、田中院長が高いスキルを持っているからだ。保険診療と自由診療を織り交ぜながら、患者が求めるオーダーメイドの治療が実現できている。

脳卒中、脊髄損傷の後遺症改善にサイトカインカクテル療法を提案
脳内に存在する幹細胞を活性化して自己修復を促す再生医療



脳神経外科、脊椎外科の内視鏡手術を多数行った
経験豊富な専門医が確かなエビデンスに基づいた
専門性の高い治療を行う

がん治療の選択肢を広げるがんのゲノム治療 複数の知見を駆使して、最良の解決手段を模索する

当クリニックのすい臓がんの患者さんはゲノム治療を受けて、術後5年経っても生存されているケースもあります」

中でも独自性のある治療が、低侵襲の内視鏡手術と再生医療を組み合わせた方法。日本ではほとんど例がない一方で、患部の治癒も良くなるなどメリットは多い。PELやPEDなどの内視鏡手術に、再生医療である「PRP（多血小板血漿）療法」を組み合わせるやり方だ。「手術ではどうしても患部が傷ついてしまうので、回復にも時間が掛かります。ならばそこに再生医療を組み合わせればいいのではと思ったのがきっかけです。手術で患部を治して、症状の緩和を再生医療でカバーする。圧倒的に治りが良いですね」

熟練の技術と専門知識が必要で、「他院で手術したが治らない」と同クリニックを頼る患者も少なくない。「再生医療も10年くらい勉強して、知見があるからこそできることなのです。的確に診断できるかどうかも重要。高い専門性と経験がないと難しい治療法です」

がん治療も力を入れている分野の1つだが、当然この治療にも専門性が求められる。脳神経外科を専門にする田中院長はその治療を通して、腫瘍や転移したがん、脊椎から骨に転移したがんなど様々な症例をつぶさに見てきた経験がある。

「脳神経外科を介して多くの事例に出会い、色々ながん治療を経験し、勉強すると必然的に詳しくなります」と語る田中院長。同クリニックではがん治療にゲノム治療を採用している。正常な人はがんを抑制する遺伝子が働くので増殖を防ぐことができるが、歳を重ねるとその力が弱くなり、がんが増殖しやすくなるのだという。

ゲノム治療では、そのがんを抑制する遺伝子を点滴で注射し、活性化を促す。クリニックの「院内ラボ」で行っている治療方法だ。「ステージ4や転移が見つかった末期がん患者の場合、諦めてホスピスなどで様子を見ましようという結論になりがちです。しかし末期がん患者に対しても当院の免疫療法、ゲノム治療を行うことは可能です。また手術、化学療法、放射線療法などの標準治療に当院のゲノム療法を併用も可能です。ゲノム療法の特徴としては、化学療法と違い副作用が強く出ない点が挙げられます。他にも再発予防に対してゲノム療法を行うことも可能です。

こうした独自性、先進性が功を奏したのか、開業から半年ほどで患者からの確かな信頼を得ることができている。遠方からの来院も少なくないほか、インバウンド——アジアを中心とした外国人の利用もある。

コロナ禍が収束したこともあり、今後はインバウンド患者の取り込みにも力を入れようとしている。いわゆる医療ツーリズムと言われるものだが、現地では日本の医療に対する注目度、需要は高いようだ。同クリニックの上階フロアにスペースを確保し、そこで待機しながらインバウンドの患者に治療を受けてもらう体制を整えた。「中国や韓国、ベトナムなどからの患者さんに対し、われわれの医療を提供しようと考えています」

現在は、非常勤の医師もいるが実質的に田中院長が1人で治療に当たっている。近い将来には分院を展開する計画

PROFILE

田中 聡 (たなか・さとし)

1984年生まれ。
 2010年、大阪医科大学医学部医学科を卒業。
 同年4月、湘南鎌倉総合病院の初期研修医。
 2012年4月、NTT 東日本関東病院の脳神経外科に入局。
 2013年4月、湘南鎌倉総合病院の脳神経外科に入局。
 2020年4月、稲波脊椎関節病院に入局。
 同年12月、森山記念病院の脳神経外科脊椎外科に入局。
 2023年3月、表参道総合医療クリニックを開院。

【所属・活動】
 日本脳神経外科学会。日本脳神経外科コンgres。日本脊髄外科学会。日本低侵襲・内視鏡脊髄神経外科学会。日本神経内視鏡学会。日本再生医療学会。日本頭痛学会。日本抗加齢医学会。日本遠隔医療学会。日本メディカルAI学会。日本メンズヘルス医学会。日本脳神経血管内治療学会。日本脳腫瘍の外科学会。日本脳卒中学会。日本間脳下垂体腫瘍学会。日本予防医学会。

【専門医・認定医】
 日本脳神経外科専門医。脊椎脊髄外科専門医。日本脊髄外科認定医。テストステロン治療認定医。厚生労働省指定オンライン診療研修終了。

INFORMATION

所在地	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-46-16 イル・チェントロ・セレーノ 1F TEL 03-6805-0328
アクセス	東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅より徒歩5分 クリニック前にパーキング(タイムズ有)
設立	2023年
診療内容	整形外科、脳神経外科、腫瘍内科、内科、
診療時間	〈月～水・金～日〉10:00～19:00 〈木〉9:00～12:00 〈休診日〉祝
理念	身近な医療から専門性の高い医療まで 安心して受けられるように 常に知識・技術の向上に努めます。 痛みの治療やがん治療で標準治療を受けているが 改善しない患者様に対してオーダーメイドの専門性の高い 再生医療・がん遺伝子治療を提供する事を約束します。



<https://www.omotesando-amc.jp/>

信条は「グリット」、困難なことも「やり抜く力」
 分院の開業、インバウンドへの医療提供を目指す

があり、医師や看護師などを新たに募集し、さらに質の高い医療が提供できる組織を作ろうとしている。
 同時に取り組むのが現場のIT活用だ。現在の医療現場は非効率なことが多く、改善できる点
 がまだまだあるという。「医療従事者の労働環境にも問題がありますし、ITを活用して効率化
 を図ろうと考えています。オンライン診療も始める計画です」

田中院長は、患者を自分の家族のように思って診療に当たるよう心掛け、患者一人ひとりの要
 望をくみ取り、オーダーメイドの治療方法を考える。「そうやって親身になれば、治療を間違え
 ることもなくなり、また患者に合った新しい治療を提供することも可能になります」
 患者に感謝されることが医師の醍醐味だと話す田中院長。「患者さんのためになる気持ち」が、
 その貪欲で積極的な向上心を下支えしている。
 信条は「グリット」。「Grit」という英単語で、「やり抜く力」という意味がある。何事も
 やり遂げる持続力が大事だと考えている。「特に新しいことや特殊なことに挑戦する時、一発で
 成功しないものです。そんな時に粘ってやり遂げる力が必要になってきます」
 分院の開業、さらにはインバウンドへの医療提供も視野に入れている表参道総合医療クリニッ
 ク。その将来像は無限の可能性を秘めている。患者のためを想う、田中院長の研鑽の日々は今後
 も続く。